

【別紙 2】

〈授業改善推進プラン 令和 7 年度第 1 学年 国語科〉

1. 『わかる』から『できる』を体感する授業」を実現する上で解決すべき課題

令和 7 年度実施小笠原村学力調査の結果は、全国平均から△0.10 ポイント上回る結果だった。一方、2 学年は△0.06 ポイント、3 学年は▲0.003 と学年が上がるにつれて緩やかに下降する傾向がみられる。以上の点を踏まえて、以下の 2 点を 1 学年での解決すべき課題として挙げる。

- ・基本的学力の定着させるために粘り強く学習に取り組めるようになること。
- ・既習事項を適切に活用できるようになること。

2. 課題改善に向けた取組状況

(1) 令和 5 年度授業改善推進プラン記載内容

【課題の改善に向けた方策】

- ①短い文でも構わず、どんどん浮かんだことを書かせる習慣を身に付ける。
- ②宿題の定着とスキルタイムでの漢字や言葉の復習を行う。

【令和 6 年度末に期待する児童（生徒）の姿】

・相手に分かりやすく伝わるように文章全体の構成を考える力を伸ばす。 ・意見文や作文を書くことができるようにする。 ・構成の過程で思考ツールを活用し、文章全体を見通して構成し、構成の効果を考えることができるようにする。 ・作文を読み合い、文章校正する力を伸ばす。

(2) 今年度実践している『わかる』から『できる』を体感する授業」を実現するための工夫等

- ・単元のはじめに既習事項や関連事項の復習の時間を設けている。
- ・知識を活用する際の良いモデルを示すとともに、悪いモデルの修正の仕方を示している。
- ・漢字、文法の小テストを週 1 回程度実施している。

3. 課題の改善に向けた方策と検証方法

＜方策＞

- ①国語の勉強法が分からない生徒のために自主学習でどのような学習をすればよいか、各単元や授業の際に例示する。
- ②各学期にそれぞれの領域で一度以上は、単元の学習事項を踏まえた創造的な学習課題を設定する。

＜検証方法＞

- ① 各学期の知識技能の達成率 B 以上の生徒の割合が 8 割を超える。(1 学期：83%)
- ②成果物の取組状況に単元に関連のある既習事項、学習事項が正しく活用されているかを見取る。

4. 検証結果(成果と課題) 【年度末に記入する】

＜成果＞

＜課題＞

5. 令和 8 年度(次学年)の学習指導において特に留意すべき事項 【年度末に記入する】

- ・
- ・

6. 令和 8 年度(次学年)末に期待する児童(生徒)の姿 【年度末に記入する】

【別紙 2】

〈授業改善推進プラン 令和 7 年度 第 1 学年 社会科〉

1. 『わかる』から『できる』を体感する授業」を実現する上で解決すべき課題 ・村学力テストの結果から、基礎問題は全国値を 3.2%上回っているものの、活用問題は全国値を 8.7%も下回っており、基礎的な知識・技能を活用する力が課題であることがわかる。 ・また、記述問題に対する正答率が特に低く、全国値と比べ 15.9%も下回っている。文章で考えを説明する力や論述力に大きな課題であることがわかった。							
2. 課題改善に向けた取組状況 (1) 令和 5 年度授業改善推進プラン記載内容 〔課題の改善に向けた方策〕 ①ICT 機器、資料集、地図帳を併用して活用する。 ②当事者意識をもったり、小笠原の土地と比較したりして学習に取り組ませる。 〔令和 6 年度次学年末に期待する児童生徒の姿〕 ・課題を見つけ粘り強く調べるとともに、事実が正しいものか判断する力を育てたい。 ・グラフや表などから考察し、人に分かりやすく伝える力を伸ばしたい。 (2) 今年度実践している『わかる』から『できる』を体感する授業」を実現するための工夫等 ①基礎的な知識を身に付けるとともに、時代や出来事の関連性などを多面的・多角的に考察する発問を取り入れたワークシートを毎時間作成している。 ②ワークシートに考えをまとめる発問を設定したり、プレゼンテーションソフトを利用して発表し合ったり、知識を活用する活動を取り入れている。 ③単元ごとに小テストを実施して、社会の基礎的な用語の定着を図っている。							
3. 課題の改善に向けた方策と検証方法 <table border="1"> <thead> <tr> <th>＜方策＞</th><th>＜検証方法＞</th></tr> </thead> <tbody> <tr> <td>①ワークシートに、資料や既存の学習内容を比較して相互の関連を問う発問の設定や、学習した知識技能を活用し本時の学習内容を自らの言葉でまとめる活動に取り組む。</td><td>①各学期の思考・判断・表現の観点の達成率が 60%以上の生徒の割合が 80%以上となるようにする。 (1 学期：67%)</td></tr> <tr> <td>②単元ごとに小テストを実施して、基礎的な知識・技能をより確実に身に付ける。</td><td>②各学期の知識・技能の観点の正答率が 80%以上の生徒の割合が 80%以上となるようにする。 (1 学期：61%)</td></tr> </tbody> </table>		＜方策＞	＜検証方法＞	①ワークシートに、資料や既存の学習内容を比較して相互の関連を問う発問の設定や、学習した知識技能を活用し本時の学習内容を自らの言葉でまとめる活動に取り組む。	①各学期の思考・判断・表現の観点の達成率が 60%以上の生徒の割合が 80%以上となるようにする。 (1 学期：67%)	②単元ごとに小テストを実施して、基礎的な知識・技能をより確実に身に付ける。	②各学期の知識・技能の観点の正答率が 80%以上の生徒の割合が 80%以上となるようにする。 (1 学期：61%)
＜方策＞	＜検証方法＞						
①ワークシートに、資料や既存の学習内容を比較して相互の関連を問う発問の設定や、学習した知識技能を活用し本時の学習内容を自らの言葉でまとめる活動に取り組む。	①各学期の思考・判断・表現の観点の達成率が 60%以上の生徒の割合が 80%以上となるようにする。 (1 学期：67%)						
②単元ごとに小テストを実施して、基礎的な知識・技能をより確実に身に付ける。	②各学期の知識・技能の観点の正答率が 80%以上の生徒の割合が 80%以上となるようにする。 (1 学期：61%)						
4. 検証結果(成果と課題) <u>【年度末に記入する】</u> ＜成果＞ ＜課題＞	5. 令和 8 年度(次学年)の学習指導において特に留意すべき事項 <u>【年度末に記入する】</u> ・ ・						
6. 令和 8 年度(次学年)末に期待する児童(生徒)の姿 <u>【年度末に記入する】</u>							

【別紙 2】

〈授業改善推進プラン 令和 7 年度第 1 学年 数学科〉

1. 『わかる』から『できる』を体感する授業を実現する上で解決すべき課題 - すべての観点において全国値を上回っているが、「知識・技能」の観点は 71.8 と他の観点と比べて、全国値 68.6 との差が小さい。 【解決すべき課題】 - 今年度の「知識・技能」の観点の問題については、「小数・分数の計算」の乗除に関する問題において、正答率が全国値よりも下回っている問題もあった。			
2. 課題改善に向けた取組状況 (1) 令和 5 年度授業改善推進プラン記載内容 - 授業のねらいにつながる既習内容を確認し、児童が主体的に自力解決できるようにする。 - 具体物や半具体物の操作を通して、図形の構成や計算の意義を感覚的に捉えられるようにする。 (2) 今年度実践している『わかる』から『できる』を体感する授業を実現するための工夫等 - 問題演習量を増やす。(問題演習を繰り返した上で、同じ形式の問題で小テストを実施。) - 毎時間最初の 5 分間で計算のドリルに取り組み、基本的な計算の技能の定着を図る。細かく小テストを実施しながら、必要に応じて個別に課題を出す。 - 授業内での机間指導を意識的に行い、数学に対して苦手意識のある生徒への支援を行う。 - 小学校での学習内容の復習を繰り返し行う。			
3. 課題の改善に向けた方策と検証方法 <table border="0" style="width: 100%;"> <tr> <td style="width: 50%; vertical-align: top;"> ＜方策＞ ① 小数や分数をふくむ計算演習と小テストを実施。 </td> <td style="width: 50%; vertical-align: top;"> ＜検証方法＞ ① 小テストで正答率 80% 以上になる生徒数がクラス全体の 8 割を超えるかどうか。 </td> </tr> </table>		＜方策＞ ① 小数や分数をふくむ計算演習と小テストを実施。	＜検証方法＞ ① 小テストで正答率 80% 以上になる生徒数がクラス全体の 8 割を超えるかどうか。
＜方策＞ ① 小数や分数をふくむ計算演習と小テストを実施。	＜検証方法＞ ① 小テストで正答率 80% 以上になる生徒数がクラス全体の 8 割を超えるかどうか。		
4. 検証結果(成果と課題) <u>【年度末に記入する】</u> ＜成果＞ ＜課題＞	5. 令和 8 年度(次学年)の学習指導において特に留意すべき事項 <u>【年度末に記入する】</u> ・ ・		
6. 令和 8 年度(次学年)末に期待する児童(生徒)の姿 <u>【年度末に記入する】</u>			

【別紙2】

〈授業改善推進プラン 令和7年度第1学年 理科〉

1. 『『わかる』から『できる』を体感する授業』を実現する上で解決すべき課題 ・村学力調査の結果から、令和7年度は全国平均(52.6)に対して(50.4)であり、観点別に見ると、思考・判断・表現は全国平均(47.9)に対して(45.5)、知識・技能は(55.3)に対して(53.3)と下回った。前年度の学習内容の定着に課題が見られる。			
2. 課題改善に向けた取組状況 (1) 令和5年度授業改善推進プラン記載内容 ・思考力を高めるために、授業内で予想を考える時間を多くとる。 ・実験後の考察を共有する時間の確保を行う。 (2) 今年度実践している『『わかる』から『できる』を体感する授業』を実現するための工夫等 ・単元まとめテストの実施 ・つまずきやすい単元の復習プリントの配布 ・ふり返りシートのデジタル化			
3. 課題の改善に向けた方策と検証方法 <table border="1"> <tr> <td> ＜方策＞ ①ふり返りシートの活用により、各単元で確認テストを主体的に取り組む。 ②観察・実験のレポートを共有することで、いつでもどこでも学びに取り組むことができる。 </td><td> ＜検証方法＞ ①既習事項が定着しているか(平均正答率 60%以上を基準とする)どうかを単元末テストで検証する。 ②観察・実験への取り組み方が思考・判断・表現に結び付けられているか(平均正答率 60%以上)を定期考査で検証する。 </td></tr> </table>		＜方策＞ ①ふり返りシートの活用により、各単元で確認テストを主体的に取り組む。 ②観察・実験のレポートを共有することで、いつでもどこでも学びに取り組むことができる。	＜検証方法＞ ①既習事項が定着しているか(平均正答率 60%以上を基準とする)どうかを単元末テストで検証する。 ②観察・実験への取り組み方が思考・判断・表現に結び付けられているか(平均正答率 60%以上)を定期考査で検証する。
＜方策＞ ①ふり返りシートの活用により、各単元で確認テストを主体的に取り組む。 ②観察・実験のレポートを共有することで、いつでもどこでも学びに取り組むことができる。	＜検証方法＞ ①既習事項が定着しているか(平均正答率 60%以上を基準とする)どうかを単元末テストで検証する。 ②観察・実験への取り組み方が思考・判断・表現に結び付けられているか(平均正答率 60%以上)を定期考査で検証する。		
4. 検証結果(成果と課題) <u>【年度末に記入する】</u> ＜成果＞ ＜課題＞	5. 令和7年度(次学年)の学習指導において特に留意すべき事項 <u>【年度末に記入する】</u> ・		
6. 令和7年度(次学年)末に期待する児童(生徒)の姿 <u>【年度末に記入する】</u>			

〈授業改善推進プラン 令和7年度第1学年 音楽科〉

1. 『わかる』から『できる』を体感する授業を実現する上で解決すべき課題

問5の質問項目について、全体の21%が否定的な評価を回答している。これは、1学年1学期では器楽領域（吹奏楽）の習得が実感しにくいことや、明確な発表や完成のない歌唱授業で「上手になった」という実感が得にくいことなどが原因として推察される。年度末の音楽発表会後の振り返りに限らず、毎時間の授業でどのくらいできることが増えているのか、目に見えて実感することのできる工夫が必要であると考え。また全校吹奏楽においては、その性質上、50分間でできることが増えることが確実ではないため、生徒が粘り強く希望をもって練習を続けられるような工夫が必要である。

2. 課題改善に向けた取組状況

(1) 令和5年度授業改善推進プラン記載内容

【言語化の支援】聴き取ったことや感じ取ったことを言語化することに苦手さがある生徒が少なくないため、きっかけとなるような語彙を集めたプリントを配布した。歌詞や音楽記号を、情景や感情と関連付けながら、「言葉で表現できる」授業を目指す。

【ICT機器の導入】本年度5月より、音楽室にモニター画面を設置した。実際に教師がお手本をして見せることの他に、視覚的な情報を積極的に与え、体の使い方や、奏法等のイメージをもてるようにする。また、2学期以降、器楽分野では各楽器の“お手本動画”をクラスルームに投稿し、生徒の学習端末から1人1人が視覚と聴覚を使って目標となる演奏を把握できるようにする。生徒自身が表現に意欲をもち、「音で表現できる」授業を目指す。

【音楽室のUD化】授業の流れを板書したり、タイマーを用いたりして時間や活動を視覚化することで、見通しをもって授業に参加することができるようにする。また、教員の話に注意を向け、指示の聞き漏らしを減らすため、音楽室内の掲示物や設置物は最低限とする。教室の環境調整を通して、「集中が持続できる」授業を目指す。

(2) 今年度実践している『わかる』から『できる』を体感する授業を実現するための工夫等

- ・1つの題材内で振り返り欄を設け、できたことが実感できるようにしている。
- ・R5年度より、単学年での練習はパートや個人練習ではなく全体合奏に限定し、そこで習得したことを異学年合同練習で活かすサイクルを実践している。また、学期末に実技テストを行い、少しでもできることが増えたことを実感できるようにしている。（吹奏楽）

3. 課題の改善に向けた方策と検証方法

＜方策＞

- ①授業の中で振り返りを行うが、「その日できたこと」の記載欄を設ける。また、奏法等に関する疑問点に答えていくため、質問欄を設ける。
- ②全体合奏を全校吹奏楽指導の基本とし、一人ひとりができないことの原因を的確に指摘し、その解決策、解決策の挑戦によってできたことの価値付けを心がける。

＜検証方法＞

- ①年度末の音楽発表会後の振り返りで、できるようになったことに対する具体的な記載を見とる。（自身の発音・発声の変化、音域の広がりや、合唱の全体像に対する変化を感じ取った記載）
- ②年度末の授業アンケートにて、問5と同様の設問の肯定的評価が85%以上を超える。

4. 検証結果（成果と課題）【年度末に記入する】

＜成果＞

5. 令和8年度（次学年）の学習指導において特に留意すべき事項【年度末に記入する】

- ・
- ・

<課題>	
6. 令和8年度(次学年)末に期待する児童(生徒)の姿【<u>年度末に記入する</u>】	

【別紙 2】

〈授業改善推進プラン 令和7年度第1学年 美術科〉

1. 「『わかる』から『できる』を体感する授業」を実現する上で解決すべき課題

- ・わかったつもりになっているが、本当に理解ができていないことがある。
- ・「できた」だけで「わかって」いないことがある。
- ・生徒の授業評価アンケートにおいては、全項目ほぼ肯定的な意見となっている。しかし、4よりは3の意見が多いものもあるので、よりわかりやすい授業になるよう、工夫する必要がある。

2. 課題改善に向けた取組状況

(1) 令和5年度授業改善推進プラン記載内容

- ・図画工作科の特に技能面においては、『わかる』から『できる』という一方的な視点だけではなく、『できる』から『わかる』という学びのプロセスを体験することもある。『わかる』と『できる』が相互作用的に働いているという柔軟な視線を持ちながら、学習活動を計画したり、児童一人一人の取り組みに対応したりする。
- ・表したいものに合わせて材料や道具などの使い方のさらに工夫できるようにする。
- ・自分で発想したり、考えたりするのが得意な児童が多いので、さらに自分の思いや気持ちを重ねて表現を深めることができるようにする。

(2) 今年度実践している「『わかる』から『できる』を体感する授業」を実現するための工夫等

- ・「説明（わかる）→作業（できる）」では、生徒はあまり理解していない場合も多い。「説明（わかる）→作業（できる）→説明（わかる）」と同じ内容を繰り返すことで、自分のやった作業と説明がつながってることが多い。テスト前に補習を行い、同じ内容を確認することで、定着と紐付けを行う。
- ・振り返りを記入する際に、考えたことや悩んだことを記入させるようにし、それに対してひとつひとつコメントを入れることで、個々の課題をクリアするための手助けになるようにする。

3. 課題の改善に向けた方策と検証方法

＜方策＞

- ①机間指導を充実させ、個々のつまづきに気づき、丁寧に対応していくこと。
- ②振り返りを毎時間提出させ、それに対して個々にコメントを入れて返却し、授業で質問等がしにくい生徒に対するフォローをする。

＜検証方法＞

- ①作品への現れ方を見る。
- 年度末の生徒授業アンケートにおいて、肯定的意見が増加しているかどうかを見る。
- ②作品への現れ方を見る。

4. 検証結果(成果と課題) 【年度末に記入する】

<成果>

＜課題＞

５．令和８年度(次学年)の学習指導において特に留意すべき事項【年度末に記入する】

- :

6. 令和8年度(次学年)末に期待する児童(生徒)の姿【年度末に記入する】

【別紙2】

〈授業改善推進プラン 令和7年度第1学年 保健体育科〉

1. 『わかる』から『できる』を体感する授業」を実現する上で解決すべき課題 ・授業を受けて、科目に対する興味・関心が一層深まったと回答する割合を増やすこと (当てはまらない1名、やや当てはまらない3名、やや当てはまる6名、かなり当てはまる5名) ・授業を受けて、学習内容が身についていると実感していると回答する割合を増やすこと (当てはまらない1名、やや当てはまらない2名、やや当てはまる5名、かなり当てはまる7名) 【令和7年度1学期実施授業アンケートより15名回答】	
2. 課題改善に向けた取組状況 (1) 令和5年度授業改善推進プラン記載内容 ・体育学習のポイント、振り返りのポートフォリオ化を図る。 ・各単元で児童の学び合い活動を取り入れ、活動を見合ったり、気付きを伝えあったりして、自分の動きを振り返り、改善できるようにする。 ・運動が単調にならないように、運動を得点化したり、ゲーム化したりする。 (2) 今年度実践している『わかる』から『できる』を体感する授業」を実現するための工夫等 ・各単元において、学習カードを使用し、見通しをもって授業に臨むこと。 ・学習者用端末を使用し、知識と技能向上の一助とすること。 ・仲間と振り返る機会を設け、本時の振り返りと次時への意識付けを図ること。	
3. 課題の改善に向けた方策と検証方法 ＜方策＞ ①学習カードやワークシートを用いて、見通しをもって授業に臨むこと ②生徒同士、教師との振り返りの時間を設定し、学習のまとめと全体への共有をすること。	＜検証方法＞ ①2学期授業アンケートの上記項目の「当てはまらない・やや当てはまらない」回答の減少 ②2学期期末考査の得点と生徒自身の学習方法の振り返り
4. 検証結果(成果と課題) <u>【年度末に記入する】</u> ＜成果＞	5. 令和8年度(次学年)の学習指導において特に留意すべき事項 <u>【年度末に記入する】</u>
6. 令和8年度(次学年)末に期待する児童(生徒)の姿 <u>【年度末に記入する】</u>	

【別紙 2】

〈授業改善推進プラン 令和7年度第1学年 技術科〉

1. 「『わかる』から『できる』を体感する授業」を実現する上で解決すべき課題

- ・授業評価アンケートで授業の中で学習用端末を活用しているかの項目が30%の生徒があまり活用されていないという結果だったので、ICTを活用した提示方法や、タブレットを活用したワークシートなどを作成し、生徒が分かりやすい授業を目指す。

2. 課題改善に向けた取組状況

(1) 令和5年度授業改善推進プラン記載内容

- ・工具も初めて見聞きするものも多く、使い慣れていないため、工具の使い方の動画を見て分かりやすいように提示する。

(2) 今年度実践している『わかる』から『できる』を体感する授業」を実現するための工夫等

- ・1時間の授業の見通しをもてるように、授業の流れやポイントなどをあらかじめ提示しておく。
- ・工具の種類によっては使い方の練習を行い、失敗をしないようにする。

3. 課題の改善に向けた方策と検証方法

＜方策＞

①課題やワークシートをタブレットによって配布したり、道具の使い方のどの作業している様子を動画で提示して生徒が作業を分かりやすいようにする。

＜検証方法＞

- ①作業が行程どおりに進めたかどうか。
- ②作品の完成度が高いかどうか。

4. 検証結果(成果と課題) 【年度末に記入する】

<成果>

<課題>

5. 令和8年度(次学年)の学習指導において特に留意すべき事項【年度末に記入する】

-

6. 令和8年度(次学年)末に期待する児童(生徒)の姿【年度末に記入する】

〈授業改善推進プラン 令和7年度第1学年 技術・家庭 家庭分野〉

1. 『『わかる』から『できる』を体感する授業』を実現する上で解決すべき課題
- ・家庭での予習・復習が十分でない（授業アンケート問1：否定的8人、肯定的9人）
 - ・ICT活用の実感に差がある（授業アンケート問6：授業中端末活用否定的4人、肯定的13人／問15：教員のICT活用について否定的4人、肯定的13人）
 - ・学習内容の定着や興味関心の実感が一部に不足（授業アンケート問4・5 否定的2人、肯定的15人）
- 【令和7年度1学期実施授業アンケート 17名回答】

2. 課題改善に向けた取組状況
- (1) 令和5年度授業改善推進プラン記載内容
- ・学習した知識・技能について家庭実践レポートを單元ごとに行っている。
 - ・ICT活用して、繰り返し復習できるような環境づくりをしていく。
 - ・練習の時間を十分にとっている。
- (2) 今年度実践している「『わかる』から『できる』を体感する授業」を実現するための工夫等
- ・調理実習や生活技術の実践を通じ、「できる」実感を重視する。
 - ・授業開始時に目標や評価方法を明確に提示する。
 - ・ICTを活用した調べ学習や振り返りの実施を行う。
 - ・ていねいな説明・板書、机間指導の充実を行う。

3. 課題の改善に向けた方策と検証方法

＜方策＞

- ①家庭と連携した予習・復習の仕組みづくり
家庭でできる課題を出し、授業内容とつなげる。提出物に家庭からの一言等を設け、保護者と連携する。
- ②ICT活用の目的の明確化と工夫した共有活動
端末を活用して、調理手順の動画視聴・まとめシート作成・意見の共有などを明確な目的をもって実施。Jamboard やスライドを用いて、ペアやグループで発表・鑑賞の時間を設ける。
- ③「できた！」を実感できるアウトプット活動の設定
調理等の実践後、振り返りシートで達成度を自己評価。写真や感想を組み合わせたレポートを作成し、簡単な展示や発表活動で自他の成長を実感させる。

＜検証方法＞

- ①題材終了後のアンケートや2学期授業アンケートで、家庭学習・ICT活用の効果について振り返る。
- ②振り返りカード等を用いて、学習の成果と課題を記録する。
- ③振り返りシートや2学期授業アンケートで、学びの実感について振り返る。

4. 検証結果(成果と課題) 【年度末に記入する】

＜成果＞

＜課題＞

5. 令和8年度(次学年)の学習指導において特に留意すべき事項 【年度末に記入する】

6. 令和8年度(次学年)末に期待する児童(生徒)の姿 【年度末に記入する】

【別紙 2】

〈授業改善推進プラン 令和7年度第1学年 英語科〉

1. 「『わかる』から『できる』を体感する授業」を実現する上で解決すべき課題

- ・令和7年度村学力調査では全国値よりも総合で+7.8ポイント、観点では知識・技能+6.4ポイント、思考・判断・表現では+10.2ポイントと非常に高かった。現状課題となる事項は見受けられないが、他学年のこれまでの傾向を見ると学年が進むにしたがって知識・技能において低下が見られている。また、上位層と下位層が大きく乖離する傾向がある。現状を維持しつつ、下位層への継続的なサポートを行っていく必要がある。

2. 課題改善に向けた取組状況

(1) 令和5年度授業改善推進プラン記載内容

該当学年が小学5年生であった令和5年度の授業改善推進プランでは課題として以下のことが示された。

- ・児童によって学習意欲に差がでてきている。意欲が低い児童が 30%程いる。
- ・聞き取りや読み取りが苦手な児童が 30%程いる。
- ・ローマ字の読み、書きが苦手な児童が 10%程いる。

(2) 今年度実践している『『わかる』から『できる』を体感する授業』を実現するための工夫等

- ・前時までの復習を導入時に毎回行い、基礎基本の定着を図る。
- ・既習内容を活用したコミュニケーション活動を行う。
- ・既習学習の基本表現の反復練習の練習を行い、基礎の定着を行う。

3. 課題の改善に向けた方策と検証方法

＜方策＞

- ①各授業で前時の復習を積極的に行い、基礎基本の定着を図るために統一した形式の練習プリントを使用する。
- ②ワーク付属のデジタルドリルや既習事項の振り返り教材を活用し、復習の反復練習を行う。

＜検証方法＞

- ①単元終了後に内容をどの程度理解しているかを確認する。
- ②反復練習を確認するために練習時と同じ問題での確認を行う。

4. 検証結果(成果と課題) 【年度末に記入する】

<成果>

＜課題＞

5. 令和8年度(次学年)の学習指導において特に留意すべき事項【年度末に記入する】

-

6. 令和8年度(次学年)末に期待する児童(生徒)の姿【年度末に記入する】

【別紙 2】

〈授業改善推進プラン 令和7年度第2学年 国語科〉

1. 「『わかる』から『できる』を体感する授業」を実現する上で解決すべき課題

令和 7 年度実施小笠原村学力調査の結果は、0.06 ポイント上回る結果だった。一方、全国平均から 1 学年は△0.10 ポイント、3 学年は▲0.003 と学年が上がるにつれて緩やかに下降する傾向がみられる。以上の点を踏まえて、以下の 2 点を 1 学年での解決すべき課題として挙げる。

- ・ 基本的学力の定着させるために粘り強く学習に取り組めるようになること。
- ・ 既習事項を適切に活用できるようになること。

2. 課題改善に向けた取組状況

(1) 令和5年度授業改善推進プラン記載内容

【課題の改善に向けた方策】

- ①毎週作文で原稿用紙 200 字程度の文章を書き、それらを読み合いコメントすることで、文章の書き方や表現を学び合わせる。さらに使用する漢字数を指定して、漢字の活用能力を高める。
- ②スキルタイムを使って、既習の学習内容を復習する時間を確保する。
- ③グループトークや朝のスピーチを取り入れる。

【令和6年度末に期待する児童（生徒）の姿】

- ・感じたり考えたりしたことを表現豊かに文章化できる児童
- (2) 今年度実践している「『わかる』から『できる』を体感する授業」を実現するための工夫等
- ・単元のはじめに既習事項や関連事項の復習の時間を設けている。
- ・知識を活用する際の良いモデルを示すとともに、悪いモデルの修正の仕方を示している。
- ・漢字、文法の小テストを週1回程度実施している。

3. 課題の改善に向けた方策と検証方法

＜方策＞

- ①国語の勉強法が分からない生徒のために自主学習
でどのような学習をすればよいか、各単元や授業の
際に例示する。
- ②高校入試、高等学校での国語を見据えられるよう
にするために、各単元での学習事項の活用の仕方や、
高校での知識との関連を示す。

＜検証方法＞

- ①** 各学期の知識技能の達成率B以上の生徒の割合が8割を超える。(1学期：65%)
- ②** 各定期考査ごとに高校入試を想定した問題を出題し、その問題の正答率を見取る。

4. 検証結果(成果と課題) 【年度末に記入する】

<成果>

<課題>

5. 令和8年度(次学年)の学習指導において特に留意すべき事項【年度末に記入する】

-

6. 令和8年度(次学年)末に期待する児童(生徒)の姿【年度末に記入する】

【別紙 2】

〈授業改善推進プラン 令和 7 年度 第 2 学年 社会科〉

1. 『わかる』から『できる』を体感する授業」を実現する上で解決すべき課題 ・村学力テストの結果から、全国値を上回っている(+3.5%)おり、全体的に検討している。 ・カテゴリ一別にみると、基礎は 51.2%と全国値を 2.8%上回っており強みであるといえるが、活用は 44.4%と全国を上回っている(+5%)ものの、基礎に比べて点が下がり、思考力・表現力が課題であると言える。 ・分野別でみると、歴史的分野は 49.2%と全国値を大きく上回っており(+7.6%)、歴史的分野の理解は定着しているといえるが、地理的分野は 49.0%と全国値を下回っている (-0.4%)。 ・以上のことから、基礎的な知識・技能を活用して、思考・判断・表現する学習と地理的分野の学習が課題といえる。							
2. 課題改善に向けた取組状況 (1) 令和 5 年度授業改善推進プラン記載内容 [課題の改善に向けた方策] ①ICT 機器を使い、スライドを作成し授業の中で活用する。 ②歴史領域において、歴史を動かしてきた人物になって、自分ならどう判断したか考えさせながら学習を進める。 ③スキルタイムを使って、既習の学習内容を復習する時間を確保する。 [令和 6 年度次学年末に期待する児童生徒の姿] ・政治に興味をもち、法律や選挙など現在の時事について考えや意見がもてる児童 (2) 今年度実践している『わかる』から『できる』を体感する授業」を実現するための工夫等 ①ワークシートを作成し、自ら教科書、資料集、一人一台端末を活用して調べ学習ができるようにしている。 ②ワークシートに考えをまとめる発問を設定したり、プレゼンテーションソフトを利用して発表し合ったり、知識を活用する活動を採用している。 ③時事的な内容を授業内に関連付けて取り入れ、社会的事象への興味関心を喚起している。							
3. 課題の改善に向けた方策と検証方法 <table border="1"> <thead> <tr> <th>＜方策＞</th><th>＜検証方法＞</th></tr> </thead> <tbody> <tr> <td>①ワークシートに、資料や既存の学習内容を比較して相互の関連を問う発問の設定や、学習した知識技能を活用し本時の学習内容を自らの言葉でまとめる活動に取り組む。</td><td>①各学期の思考・判断・表現の観点の達成率が 60%以上の生徒の割合が 70%以上となるようにする。 (1 学期：52%)</td></tr> <tr> <td>②單元ごとに小テストを実施して、基礎的な知識・技能をより確実に身に付ける。</td><td>②各学期の思考・判断・表現の観点の達成率が 70%以上の生徒の割合が 80%以上となるようにする。 (1 学期：52%)</td></tr> </tbody> </table>		＜方策＞	＜検証方法＞	①ワークシートに、資料や既存の学習内容を比較して相互の関連を問う発問の設定や、学習した知識技能を活用し本時の学習内容を自らの言葉でまとめる活動に取り組む。	①各学期の思考・判断・表現の観点の達成率が 60%以上の生徒の割合が 70%以上となるようにする。 (1 学期：52%)	②單元ごとに小テストを実施して、基礎的な知識・技能をより確実に身に付ける。	②各学期の思考・判断・表現の観点の達成率が 70%以上の生徒の割合が 80%以上となるようにする。 (1 学期：52%)
＜方策＞	＜検証方法＞						
①ワークシートに、資料や既存の学習内容を比較して相互の関連を問う発問の設定や、学習した知識技能を活用し本時の学習内容を自らの言葉でまとめる活動に取り組む。	①各学期の思考・判断・表現の観点の達成率が 60%以上の生徒の割合が 70%以上となるようにする。 (1 学期：52%)						
②單元ごとに小テストを実施して、基礎的な知識・技能をより確実に身に付ける。	②各学期の思考・判断・表現の観点の達成率が 70%以上の生徒の割合が 80%以上となるようにする。 (1 学期：52%)						
4. 検証結果(成果と課題) <u>【年度末に記入する】</u> ＜成果＞ ＜課題＞	5. 令和 8 年度(次学年)の学習指導において特に留意すべき事項 <u>【年度末に記入する】</u> ・ ・						
6. 令和 8 年度(次学年)末に期待する児童(生徒)の姿 <u>【年度末に記入する】</u>							

【別紙 2】

〈授業改善推進プラン 令和 7 年度第 2 学年 数学科〉

1. 『わかる』から『できる』を体感する授業を実現する上で解決すべき課題

- ・多くの観点において全国値と同程度ではあるが、「知識・技能」の観点は全国値 57.0 のところ 55.3 とよりやや下回っている。昨年度の結果は全国値 69.6 のところ 76.0 だったため、下降傾向にある。

【解決すべき課題】

- ・今年度の「知識・技能」の観点の問題については、「数と式」の領域の特に「1 次方程式」に関する問題において、正答率が低くなった。

2. 課題改善に向けた取組状況

(1) 令和 5 年度授業改善推進プラン記載内容

- ・スキルタイム：既習学習の内容を復習する時間を確保する。
- ・ICT 機器を効果的に授業の中で活用し、提示する。
- ・生活の中のものをテーマにしてデータを収集し、グラフを作成して分かることや傾向などを読み取る活動を実施する。

(2) 今年度実践している『わかる』から『できる』を体感する授業を実現するための工夫等

- ・問題演習量を増やす。(問題演習を繰り返した上で、同じ形式の問題で小テストを実施。)
- ・毎時間最初の 5 分間で計算のドリルに取り組み、基本的な計算の技能の定着を図る。
- ・授業内での机間指導を意識的に行い、数学に対して苦手意識のある生徒への支援を行う。
- ・小学校や中学 1 年での学習内容の復習を繰り返し行う。

3. 課題の改善に向けた方策と検証方法

＜方策＞

①連立方程式の学習において、計算のみの演習やテストを複数回実施。

＜検証方法＞

①テストで正答率 80%以上になる生徒が増加するかどうか。

4. 検証結果(成果と課題) 【年度末に記入する】

＜成果＞

＜課題＞

5. 令和 8 年度(次学年)の学習指導において特に留意すべき事項 【年度末に記入する】

- ・
- ・

6. 令和 8 年度(次学年)末に期待する児童(生徒)の姿 【年度末に記入する】

【別紙2】

〈授業改善推進プラン 令和7年度第2学年 理科〉

1. 『わかる』から『できる』を体感する授業」を実現する上で解決すべき課題 ・村学力調査の結果から、令和7年度は全国平均(48.7)に対して(44.9)と下回った。令和6年度の全国平均(56.0)と比較すると、令和7年度の全国平均(48.7)と下がり、内容が複雑になったことへの対応の影響も考えられる。観点別に見ると、思考力・判断力・表現力が(48.2)に対して(50.7)と上回っているが、知識・技能が全国平均(49.2)に対して(39.4)と下回っており、知識・技能の定着に課題が見られる。			
2. 課題改善に向けた取組状況 (1) 令和5年度授業改善推進プラン記載内容 ・主体的に学習に取り組む態度を改善するために、自分の学習をふり返り、知識を整理することを目標にOPPシートの活用を行う。 ・知識・技能の定着させるために、重要語句の小テストを毎週行う。 (2) 今年度実践している『わかる』から『できる』を体感する授業」を実現するための工夫等 ・単元まとめテストの実施 ・つまずきやすい単元の復習プリントの配布 ・ふり返りシートのデジタル化			
3. 課題の改善に向けた方策と検証方法 <table border="1"> <tr> <td> ＜方策＞ ①ふり返りシートの活用により、各単元で確認テストを主体的に取り組む。 ②観察・実験のレポートを共有することで、いつでもどこでも学びに取り組むことができる。 </td><td> ＜検証方法＞ ①既習事項が定着しているか(平均正答率 60%以上を基準とする)どうかを単元末テストで検証する。 ②観察・実験への取り組み方が思考・判断・表現に結び付けられているか(平均正答率 60%以上)を定期考査で検証する。 </td></tr> </table>		＜方策＞ ①ふり返りシートの活用により、各単元で確認テストを主体的に取り組む。 ②観察・実験のレポートを共有することで、いつでもどこでも学びに取り組むことができる。	＜検証方法＞ ①既習事項が定着しているか(平均正答率 60%以上を基準とする)どうかを単元末テストで検証する。 ②観察・実験への取り組み方が思考・判断・表現に結び付けられているか(平均正答率 60%以上)を定期考査で検証する。
＜方策＞ ①ふり返りシートの活用により、各単元で確認テストを主体的に取り組む。 ②観察・実験のレポートを共有することで、いつでもどこでも学びに取り組むことができる。	＜検証方法＞ ①既習事項が定着しているか(平均正答率 60%以上を基準とする)どうかを単元末テストで検証する。 ②観察・実験への取り組み方が思考・判断・表現に結び付けられているか(平均正答率 60%以上)を定期考査で検証する。		
4. 検証結果(成果と課題) <u>【年度末に記入する】</u> ＜成果＞ ＜課題＞	5. 令和7年度(次学年)の学習指導において特に留意すべき事項 <u>【年度末に記入する】</u> ・		
6. 令和7年度(次学年)末に期待する児童(生徒)の姿 <u>【年度末に記入する】</u>			

〈授業改善推進プラン 令和7年度第2学年 音楽科〉

1. 『わかる』から『できる』を体感する授業』を実現する上で解決すべき課題

問5の設問については、第1学年より否定的評価は少なく、11.1%に留まった。昨年度とは立場が異なり、1年生に教える中で、自身の成長が実感できるという異学年交流ならではの良さが影響していると推察する。一方で、ICT機器の活用に関する設問は全体的に否定的な評価が多い。(例として問6は38.9%等) 問14の否定的評価は0%であるため、一人ひとりが学習者用端末を授業内で使う機会を意識的に設け、より学習の定着が実感できるような工夫を考えたい。

2. 課題改善に向けた取組状況

(1) 令和5年度授業改善推進プラン記載内容

【異学年交流の実施】2学年のみで練習を実施した後、1年生に教えることを目標とした、1・2年合同の授業を実施する(器楽分野)。教える事や面倒を見る事に進んで取り組み、意欲的に練習に臨んでいる様子が見られた。異学年交流の実施で、「自信をもてる」授業を目指す。

【ICT機器の導入】本年度5月より、音楽室にモニター画面を設置した。実際に教師がお手本をして見せることの他に、視覚的な情報を積極的に与え、演奏のイメージをもてるようにする。また、2学期以降、各パート、各楽器の“お手本動画”をクラスルームに投稿し、生徒の学習端末から1人1人が視覚と聴覚を使って目標となる演奏を把握できるようにする。生徒自身が表現に意欲をもち、「音で表現できる」授業を目指す。

【音楽室のUD化】授業の流れを板書したり、タイマーを用いたりして時間や活動を視覚化することで、見通しをもって授業に参加することができるようにする。また、教員の話に注意を向け、指示の聞き漏らしを減らすため、音楽室内の掲示物や設置物は最低限とする。教室の環境調整を通して、「集中が持続できる」授業を目指す。

(2) 今年度実践している『わかる』から『できる』を体感する授業』を実現するための工夫等

- ・1つの題材内で振り返り欄を設け、できたことが実感できるようにしている。
- ・R5年度より、単学年での練習はパートや個人練習ではなく全体合奏に限定し、そこで習得したことを異学年合同練習で活かすサイクルを実践している。また、学期末に実技テストを行い、少しでもできることが増えたことを実感できるようにしている。(吹奏楽)

3. 課題の改善に向けた方策と検証方法

<方策>

- ①鑑賞では一人ひとりが自分のペースで音楽を聴くことができる教材の用意、歌唱・吹奏楽ではお手本動画の活用を行い、学習者用端末を使うことが目的とならないような、効果的な活用を心がける。
- ②全体合奏を全校吹奏楽指導の基本とし、一人ひとりができないことの原因を的確に指摘し、その解決策、解決策の挑戦によってできたことの価値付けを心がける。

<検証方法>

- ①年度末の授業アンケートにて、問14と同様の設問の肯定的評価が80%以上を超える。
- ②年度末の授業アンケートにて、問5と同様の設問の肯定的評価が90%以上を超える。また、音楽発表会後の振り返りにて、技能面の具体的な向上に関する記述を見とる。(自身の発音・発声の変化、音域の広がりや、合唱の全体像に対する変化を感じ取った記載)

4. 検証結果(成果と課題) 【年度末に記入する】

<成果>

5. 令和8年度(次学年)の学習指導において特に留意すべき事項 【年度末に記入する】

- ・
- ・

<課題>	
6. 令和8年度(次学年)末に期待する児童(生徒)の姿【 <u>年度末に記入する</u> 】	

【別紙 2】

〈授業改善推進プラン 令和7年度第2学年 美術科〉

1. 「『わかる』から『できる』を体感する授業」を実現する上で解決すべき課題

- ・わかったつもりになっているが、本当に理解ができていないことがある。
- ・「できた」だけで「わかって」いないことがある。
- ・生徒の授業評価アンケートにおいては、2名ほど前向きに授業に取り組めていない生徒がいる。

2. 課題改善に向けた取組状況

(1) 令和5年度授業改善推進プラン記載内容

- ・図画工作科の特に技能面においては、『わかる』から『できる』という一方的な視点だけではなく、『できる』から『わかる』という学びのプロセスを体験することもある。『わかる』と『できる』が相互作用的に働いているという柔軟な視線を持ちながら、学習活動を計画したり、児童一人一人の取り組みに対応したりする。
- ・表しいものに合わせて材料や道具などの使い方のさらに工夫できるようにする。
- ・自分で発想したり、考えたりするのが得意な児童が多いので、さらに自分の思いや気持ちを重ねて表現を深めることができるようにする。

(2) 今年度実践している「『わかる』から『できる』を体感する授業」を実現するための工夫等

- ・「説明（わかる）→作業（できる）」では、生徒はあまり理解していない場合も多い。「説明（わかる）→作業（できる）→説明（わかる）」と同じ内容を繰り返すことで、自分のやった作業と説明がつながって来ることが多い。テスト前に補習を行い、同じ内容を確認することで、定着と紐付けを行う。

3. 課題の改善に向けた方策と検証方法

＜方策＞

- ①机間指導を充実させ、個々のつまづきに気づき、丁寧に対応していくこと。特に、苦手意識をもっている生徒に対しては、丁寧に声掛けをし、どこでつまづいているのかを把握して取り除けるようにする。
- ②振り返りを毎時間提出させ、それに対して個々にコメントを入れて返却し、授業で質問等がしにくい生徒に対するフォローをする。

＜検証方法＞

- ①作品への現れ方を見る。
年度末の生徒授業アンケートにおいて、肯定的意見が増加しているかどうかを見る。
- ②作品への現れ方を見る。

4. 検証結果(成果と課題) 【年度末に記入する】

<成果>

＜課題＞

5. 令和8年度(次学年)の学習指導において特に留意すべき事項【年度末に記入する】

- :

6. 令和8年度(次学年)末に期待する児童(生徒)の姿【年度末に記入する】

【別紙 2】

〈授業改善推進プラン 令和7年度第○学年 ○○科〉

1. 『わかる』から『できる』を体感する授業を実現する上で解決すべき課題

- ※注1 令和7年度の各種調査等の結果から当該教科の課題を分析し、明らかになった内容について具体的数値等を用いながら記載すること。
- ※注2 具体的数値を用いる際には、経年の変化が読み取れるように配慮すること。
- ※注3 課題を示す際の文末表現として、「～できない。」という表現は極力避けること。

2. 課題改善に向けた取組状況

(1) 令和5年度授業改善推進プラン記載内容

- ※注1 令和5年度に策定された当該学年の授業改善推進プランより、1で挙げた課題と関連する項目について転記する。
(令和5年度策定の授業改善推進プランをもとに令和6年度中に実践した成果の一部として、令和7年度の各種調査結果等が表出しているため。)
- ※注2 例えば、令和5年度第4学年国語科の授業改善推進プランを作成する場合には、令和3年度第2学年国語科の授業改善推進プランを参照すること。そのため、学校種を跨いだり、該当の授業改善推進プランがなかったりする場合もある。その際、令和3年度に当該の授業改善推進プランが策定されていない、または、策定された当該の授業改善推進プランに該当する項目がない場合は、その事実を記載する。

(2) 今年度実践している『わかる』から『できる』を体感する授業を実現するための工夫等

- ※注1 (1)に転記した内容と関連する工夫等について記載する。
- ※注2 (1)※注2に該当する場合は、現在実践している当該の工夫等のうち、特筆すべき事項を取り上げ、その工夫等の実際について具体的に記載する。

3. 課題の改善に向けた方策と検証方法

＜方策＞

＜検証方法＞

- ※注1 1で挙げた課題と、2(1)(2)に記載された内容に鑑みた方策とする。
- ※注2 方策と検証方法が呼応するように記載し、方策は2つまでとする。
- ※注3 検証方法については、「指導と評価の一体化」の視点に立ち、具体的な時期や方法、目標値等を記載する。

4. 検証結果(成果と課題) 【年度末に記入する】

＜成果＞

- ※注1 検証結果をもとに、成果と課題に分けて、具体的な数値を用いながら端的に記載する。
- ※注2 方策が複数ある場合は、総括した形で記載する。

＜課題＞

5. 令和8年度(次学年)の学習指導において特に留意すべき事項【年度末に記入する】

- ※注1 4で成果を得られた方策は、1で挙げた課題を改善する有効な手立てとして次学年で確実に実施できるよう、具体的な単元名等を挙げてその実施方法を記載すること。
- ※注2 4で課題とされた事象については、次年度の実践で改善できるよう、3で挙げた方策の代案を提案する形で、具体的な単元名等を挙げてその実施方法を記載すること。

6. 令和8年度(次学年)末に期待する児童(生徒)の姿【年度末に記入する】

- ※注1 5に記載した事項を1年間取り組むことで期待される児童(生徒)の姿を、1で記載した課題に対応させながら具体的に記載する。

【別紙2】

〈授業改善推進プラン 令和7年度第2学年 保健体育科〉

1. 『『わかる』から『できる』を体感する授業』を実現する上で解決すべき課題 ・授業を受けて、科目に対する興味・関心が一層深まったと回答する割合を増やすこと (やや当てはまらない4名、やや当てはまる9名、かなり当てはまる4名) ・授業を受けて、学習内容が身についていると実感していると回答する割合を増やすこと (やや当てはまらない1名、やや当てはまる13名、かなり当てはまる3名) 【令和7年度1学期実施授業アンケートより17名回答】			
2. 課題改善に向けた取組状況 (1) 令和5年度授業改善推進プラン記載内容 ・心と体との密接な関係にあることを自己の経験と学習したことを関連付ける。 ・心の健康を維持するために、日常的に個別面談を行い、個に応じた対処方法を説明していく。 (2) 今年度実践している『『わかる』から『できる』を体感する授業』を実現するための工夫等 ・各単元において、学習カードを使用し、見通しをもって授業に臨むこと。 ・学習者用端末を使用し、知識と技能向上の一助とすること。 ・仲間と振り返る機会を設け、本時の振り返りと次時への意識付けを図ること。			
3. 課題の改善に向けた方策と検証方法 <table border="0" style="width: 100%;"> <tr> <td style="width: 50%; vertical-align: top;"> <方策> ①学習カードやワークシートを用いて、見通しをもって授業に臨むこと。 ②学習カード等から生徒の躰きを把握し、個別や全体に共有する。 </td> <td style="width: 50%; vertical-align: top;"> <検証方法> ❶2学期授業アンケートの上記項目の「やや当てはまらない」の回答の減少 ❷2学期期末考査の得点と生徒自身の学習豊富緒の振り返り </td> </tr> </table>		<方策> ①学習カードやワークシートを用いて、見通しをもって授業に臨むこと。 ②学習カード等から生徒の躰きを把握し、個別や全体に共有する。	<検証方法> ❶2学期授業アンケートの上記項目の「やや当てはまらない」の回答の減少 ❷2学期期末考査の得点と生徒自身の学習豊富緒の振り返り
<方策> ①学習カードやワークシートを用いて、見通しをもって授業に臨むこと。 ②学習カード等から生徒の躰きを把握し、個別や全体に共有する。	<検証方法> ❶2学期授業アンケートの上記項目の「やや当てはまらない」の回答の減少 ❷2学期期末考査の得点と生徒自身の学習豊富緒の振り返り		
4. 検証結果(成果と課題) <u>【年度末に記入する】</u>	5. 令和8年度(次学年)の学習指導において特に留意すべき事項 <u>【年度末に記入する】</u>		
6. 令和8年度(次学年)末に期待する児童(生徒)の姿 <u>【年度末に記入する】</u>			

【別紙 2】

〈授業改善推進プラン 令和7年度第2学年 技術科〉

1. 「『わかる』から『できる』を体感する授業」を実現する上で解決すべき課題

- ・授業評価アンケートで授業の中で生徒の質問に的確にこたえるという項目が23%「あまり当てはまらない」という結果だったので、授業の中で生徒とのやり取りの中や、作業ができていない生徒に対してのサポートを意識して取り組むようにする。

2. 課題改善に向けた取組状況

- (1) 令和5年度授業改善推進プラン記載内容
- ・知識や理論について意欲的に学習する態度が低い
- (2) 今年度実践している「『わかる』から『できる』を体感する授業」を実現するための工夫等
- ・1時間の授業の見通しをもてるように、授業の流れやポイントなどをあらかじめ提示しておく。
 - ・工具の種類によっては使い方の練習を行い、失敗をしないようにする。

3. 課題の改善に向けた方策と検証方法

<方策>

- ①作業の進みが遅れている生徒に対しての声掛けや、できていないところへのサポートを積極的に行っていく。

＜検証方法＞

- ①作業が行程どおりに進めたかどうか。
- ②作品の完成度が高いかどうか。

4. 検証結果(成果と課題) 【年度末に記入する】

<成果>

＜課題＞

5. 令和8年度(次学年)の学習指導において特に留意すべき事項【年度末に記入する】

-

6. 令和8年度(次学年)末に期待する児童(生徒)の姿【年度末に記入する】

〈授業改善推進プラン 令和7年度第2学年 技術・家庭 家庭分野〉

1. 『『わかる』から『できる』を体感する授業』を実現する上で解決すべき課題

- ・学習の定着と自立的な学習習慣の不足（問1：予習・復習をしていない：13人）
- ・提出物の遅れや未提出の存在（問3：期限内に出していない：8人）
- ・ICTや学習者用端末の活用に課題あり（問6：ICT活用に否定的：5人）
- ・「授業では分かったが、できたという実感を深める仕組み」が不足している（家庭学習やアウトプット機会が少ない）

問5（学習内容の定着実感）は肯定的な回答が多く（17人）、授業内での理解度は高いと考えられる。一方で、問1（家庭での予習・復習）で否定的回答が13人、問3（提出物の期限内提出）で否定的回答が8人と、授業外での継続的な学習やアウトプットが不十分な傾向が見られる。また、問6（学習者用端末の活用）で否定的回答が5人あり、自己表現や記録の機会も限定的である可能性がある。

【令和7年度1学期実施授業アンケート 18名回答】

2. 課題改善に向けた取組状況

（1）令和5年度授業改善推進プラン記載内容

- ・自分の生活から課題を見出し、その解決に向けて方法を考えることに苦手意識を感じたり、諦めてしまったりする児童が多いため、いくつかの例や見本を見せて考えのヒントにさせる。
- ・ミシン操作をする際には、見本の動画を学習者端末で見てから操作するようにする。また、2人ペアで練習させることとし、学習意欲を損なわないようにする。

（2）今年度実践している『『わかる』から『できる』を体感する授業』を実現するための工夫等

- ・授業冒頭に目標を明確に提示し、見通しを持って取り組める構成にする。
- ・教材（教科書・プリント・スライド）を丁寧に整理し、視覚的な分かりやすさを意識する。
- ・机間指導や声かけを通じて、生徒理解の状況を把握する。
- ・板書やスライド、ICT機器を適切に組み合わせた指導を実施する。
- ・学習者用端末を用いた調べ学習やレポート作成、振り返り活動を行う。
- ・成果物やまとめシートの作成を通して、学んだことの形を残す指導を試みる。

3. 課題の改善に向けた方策と検証方法

＜方策＞

①「できた」実感を高めるワークの導入

各題材でミニ課題を設定し、実習・体験→振り返り→共有の流れを明確化する

② 家庭学習との連携を意識した課題設計

家庭での実践課題を出し、学びの場を教室外に広げる

③ ICT活用の標準化と目的明確化

ICT活用場面を生徒に事前共有し、意味づけを行う

④ 提出物や課題管理の支援強化

提出物一覧やチェック表を振り返りシートに付ける等、視覚化できるようにし、生徒が自律的に管理できるようにする

＜検証方法＞

①振り返りシートや成果物の記録、2学期授業アンケート

②提出物と感想を記録し、授業で共有する。

③使用内容の記録、2学期授業アンケート

④振り返りシート

4. 検証結果（成果と課題） 【年度末に記入する】

＜成果＞

＜課題＞

5. 令和8年度（次学年）の学習指導において特に留意すべき事項 【年度末に記入する】

6. 令和8年度（次学年）末に期待する児童（生徒）の姿 【年度末に記入する】

【別紙 2】

〈授業改善推進プラン 令和7年度第2学年 英語科〉

1. 「『わかる』から『できる』を体感する授業」を実現する上で解決すべき課題

・令和7年度村学力調査では全国値よりも総合で-1.8ポイント、観点では知識・技能-4.6ポイント、思考・判断・表現では+1.1ポイントだった。そして、令和6年度村学力調査では総合で0.5ポイント低く、観点では知識・技能+1.2ポイント、思考・判断・表現では-3.3ポイントだった。前年度と比べると思考・判断・表現では向上傾向があるものの、総合及び知識・技能において課題がある。

2. 課題改善に向けた取組状況

(1) 令和5年度授業改善推進プラン記載内容

該当学年が小学6年生であった令和5年度の授業改善推進プランでは課題として以下のことが示された。

- ・児童によって学習意欲に差がある。意識の低い児童が2割程度いる。
- ・アルファベットを正しく書けない児童が3割程度いる。また、大文字小文字の使い分けや書き方についての理解は不十分である。
- ・スピーキングとリスニングを苦手とする児童が3割程度いる。

(2) 今年度実践している「『わかる』から『できる』を体感する授業」を実現するための工夫等

- ・前時までの復習を導入時に毎回行い、基礎基本の定着を図る。
- ・既習内容を活用したコミュニケーション活動を行う。
- ・短時間で未修の英文を読む練習を繰り返し、復習とともに英語のへの抵抗感を軽減する。
- ・既習学習の基本表現の反復練習の練習を行い、基礎の定着を行う。

3. 課題の改善に向けた方策と検証方法

＜方策＞

- ①各授業で前時の復習を積極的に行い、基礎基本の定着を図るために統一した形式の練習プリントを使用する。
- ②ワーク付属のデジタルドリルや既習事項の振り返り教材を活用し、復習の反復練習を行う。

<検証方法>

- ①単元終了後に内容をどの程度理解しているかを確認する。
- ②反復練習を確認するために練習時と同じ問題での確認を行う。

4. 検証結果(成果と課題) 【年度末に記入する】

<成果>

＜課題＞

5. 令和8年度(次学年)の学習指導において特に留意すべき事項【年度末に記入する】

-

6. 令和8年度(次学年)末に期待する児童(生徒)の姿【年度末に記入する】

【別紙 2】

〈授業改善推進プラン 令和 7 年度第 3 学年 国語科〉

1. 『わかる』から『できる』を体感する授業」を実現する上で解決すべき課題

令和 7 年度全国学力・学習状況調査の結果を見ると、全体の平均正答率では、全国比△6.7、東京都比△4.0 であり、全体としては優位な状況が見られた。しかし、問題形式別正答率をみると、選択式で全国比△14.4、東京都比△10.4 に対して、短答式で全国比▲11.1、東京都比▲13.0、記述式で全国比△2.2、東京都比▲0.7 と記述形式の回答の正答率が低いことが分かる。

以上のことから、知識の定着はみられるが、特に書くことでの表出の仕方に課題があると考えられる。『わかる』から『できる』のうち、『できる』に課題があると考え、以下の 2 点を示す。

- ・考えを表出する際に、基本的学力を組み合わせ使い、粘り強く学習に取り組めるようになること。
- ・書くことでの表出のためのポイントを理解し、自身の記述の型をもって書けるようになること。

2. 課題改善に向けた取組状況

(1) 令和 5 年度授業改善推進プラン記載内容

【課題】

- ・接続語を意識して文章を論理的に読解すること。

【具体的な授業改善策】

- ・教科書中の指示語、接続語を探して印を付ける。

【令和 6 年度末に期待する児童（生徒）の姿】

目的や相手に応じて、内容が伝わりやすい分かりやすい文章を書くことができる生徒

(2) 今年度実践している『わかる』から『できる』を体感する授業」を実現するための工夫等

- ・単元のはじめに既習事項や関連事項の復習の時間を設けている。
- ・知識を活用する際の良いモデルを示すとともに、悪いモデルの修正の仕方を示している。
- ・漢字、文法の小テストを週 1 回程度実施している。
- ・考えを表出する際に、第 1 段階として ICT 機器を活用して構成の修正や語彙の選択を見直すを設けている。

3. 課題の改善に向けた方策と検証方法

＜方策＞

- ①国語の勉強法が分からない生徒のために自主学習でどのような学習をすればよいか、各単元や授業の際に例示する。
- ②高校入試、高等学校での国語を見据えられるようにするために、各単元での学習事項の活用の仕方や、高校での知識との関連を示す。

＜検証方法＞

- ① 各学期の知識技能の達成率 B 以上の生徒の割合が 8 割を超える。（1 学期：76%）
- ②各定期考査ごとに高校入試を想定した問題を出題し、その問題の正答率を見取る。

4. 検証結果(成果と課題) 【年度末に記入する】

＜成果＞

＜課題＞

5. 令和 8 年度(次学年)の学習指導において特に留意すべき事項【年度末に記入する】

- ・
- ・

6. 令和 8 年度(次学年)末に期待する児童(生徒)の姿【年度末に記入する】

【別紙2】

〈授業改善推進プラン 令和7年度 第3学年 社会科〉

1. 『わかる』から『できる』を体感する授業を実現する上で解決すべき課題

- ・村学力調査の結果から、全国値を下回る（-0.9%）結果であったが、活用力を問う設問に対しては全国値を上回る結果であり（+2.5%）、「活用力」や「思考力・表現力」が強みであることがわかった。
- ・基礎問題は全国値を2.5%、知識技能を問う問題は1.9%それぞれ下回っており、特に用語や出来事の整理、理解に課題があると言える。特に歴史的分野での基礎的な年代・出来事・因果関係の理解が十分ではないと考えられる。
- ・以上のことから、単純暗記ではなく出来事の因果関係や流れを掴みながら、土台となる基礎知識の定着を図ることが課題である。

2. 課題改善に向けた取組状況

(1) 令和5年度授業改善推進プラン記載内容

〔課題の改善に向けた方策〕

- ①一人一台端末を活用し、毎回の授業で前時の内容の小テストを実施する。
- ②ワークシートの中に、表やグラフからの読み取りに関する問題を多めに設定する。

〔令和6年度次学年末に期待する児童生徒の姿〕

- ・グラフや表から、地域の特徴を読み取り、説明できる。
- (2) 今年度実践している『わかる』から『できる』を体感する授業を実現するための工夫等
- ①单元ごとに小テストを実施して、社会の基礎的な用語の定着を図っている。
 - ②基礎的な用語を確認するだけでなく、出来事の流れや因果関係を掴みながら理解できるようなワークシートの作成をしている。
 - ③ワークシートに本時の学習を自分の言葉で整理しまとめる発問を毎時間設定している。

3. 課題の改善に向けた方策と検証方法

＜方策＞

- ①ワークシートに、資料や既存の学習内容を比較して相互の関連を問う発問の設定や、学習した知識技能を活用し本時の学習内容を自らの言葉でまとめる活動に取り組む。
- ②单元ごとに小テストを実施して、基礎的な知識・技能をより確実に身に付ける。

＜検証方法＞

- ①各学期の思考・判断・表現の観点の達成率が60%以上の生徒の割合が75%以上となるようにする。
（1学期：62%）
- ②定期考査での知識・技能の観点の正答率が65%以上の生徒の割合が75%以上となる。（1学期：60%）

4. 検証結果（成果と課題） 【年度末に記入する】

＜成果＞

＜課題＞

5. 令和8年度（次学年）の学習指導において特に留意すべき事項 【年度末に記入する】

・
・

6. 令和8年度（次学年）末に期待する児童（生徒）の姿 【年度末に記入する】

【別紙 2】

〈授業改善推進プラン 令和 7 年度第 3 学年 数学科〉

1. 『わかる』から『できる』を体感する授業を実現する上で解決すべき課題

- ・多くの観点において全国値を下回っている。「知識・技能」の観点は全国値 56.4 のところ 46.6 と大きく下回っている。「思考・判断・表現」の観点は全国値 44.4 のところ 38.6 と下回っている。昨年度の結果では「思考・判断・表現」の観点は全国値 36.5 のところ 34.8 と下回っているが、差が大きくなっている。

【解決すべき課題】

- ・今年度は「知識・技能」の観点の問題については、特に「数と式」「関数」の領域の問題において正答率が低くなった。

2. 課題改善に向けた取組状況

(1) 令和 5 年度授業改善推進プラン記載内容

- ・基礎基本を身に付けるために、課題等で演習を繰り返す。その後、計算問題のみの小テストを実施。
- ・授業中に生徒同士で説明する機会を設け、自分の考えを言葉にして相手に伝える機会を設ける。
- ・既習の学習内容の復習を多く取り入れ、その時間の学習課題を考えるヒントにする。

(2) 今年度実践している『わかる』から『できる』を体感する授業を実現するための工夫等

- ・問題演習量を増やす。(問題演習を繰り返した上で、同じ形式の問題で小テストを実施。)
- ・毎時間最初の 5 分間で計算のドリルに取り組み、基本的な計算の技能の定着を図る。
- ・授業内での机間指導を意識的に行い、数学に対して苦手意識のある生徒への支援を行う。
- ・小学校や中学 1, 2 年生での学習内容の復習を繰り返し行う。

3. 課題の改善に向けた方策と検証方法

＜方策＞

①既習内容の復習、基本的な内容での確認テストを複数回実施する。

＜検証方法＞

①各単元の確認テストや定期考査の中で正答率の維持もしくは上昇するかどうか。

4. 検証結果(成果と課題) 【年度末に記入する】

＜成果＞

＜課題＞

5. 令和 8 年度(次学年)の学習指導において特に留意すべき事項 【年度末に記入する】

- ・
- ・

6. 令和 8 年度(次学年)末に期待する児童(生徒)の姿 【年度末に記入する】

【別紙2】

〈授業改善推進プラン 令和7年度第3学年 理科〉

1. 『わかる』から『できる』を体感する授業』を実現する上で解決すべき課題 ・村学力調査の結果から、令和7年度は全国平均(50.8)に対して(46.3)と下回った。令和6年度の全国平均(56.0)と比較すると、令和7年度の全国平均(50.8)と下がり、内容が複雑になったことへの対応の影響も考えられる。観点別に見ると、思考力・判断力・表現力が(49.3)に対して(50.5)と上回っているが、知識・技能が全国平均(51.8)に対して(43.4)と下回っており、知識・技能の定着に課題が見られる。			
2. 課題改善に向けた取組状況 (1) 令和5年度授業改善推進プラン記載内容 ・主体的に学習に取り組む態度を改善するために、自分の学習をふり返り、知識を整理することを目標にOPPシートの活用を行う。 ・知識・技能の定着させるために、重要語句の小テストを毎週行う。 (2) 今年度実践している『わかる』から『できる』を体感する授業』を実現するための工夫等 ・単元まとめテストの実施 ・つまずきやすい単元の復習プリントの配布 ・ふり返りシートのデジタル化			
3. 課題の改善に向けた方策と検証方法 <table border="1"> <tr> <td> ＜方策＞ ①ふり返りシートの活用により、各単元で確認テストを主体的に取り組む。 ②観察・実験のレポートを共有することで、いつでもどこでも学びに取り組むことができる。 </td><td> ＜検証方法＞ ①既習事項が定着しているか(平均正答率 60%以上を基準とする)どうかを単元末テストで検証する。 ②観察・実験への取り組み方が思考・判断・表現に結び付けられているか(平均正答率 60%以上)を定期考査で検証する。 </td></tr> </table>		＜方策＞ ①ふり返りシートの活用により、各単元で確認テストを主体的に取り組む。 ②観察・実験のレポートを共有することで、いつでもどこでも学びに取り組むことができる。	＜検証方法＞ ①既習事項が定着しているか(平均正答率 60%以上を基準とする)どうかを単元末テストで検証する。 ②観察・実験への取り組み方が思考・判断・表現に結び付けられているか(平均正答率 60%以上)を定期考査で検証する。
＜方策＞ ①ふり返りシートの活用により、各単元で確認テストを主体的に取り組む。 ②観察・実験のレポートを共有することで、いつでもどこでも学びに取り組むことができる。	＜検証方法＞ ①既習事項が定着しているか(平均正答率 60%以上を基準とする)どうかを単元末テストで検証する。 ②観察・実験への取り組み方が思考・判断・表現に結び付けられているか(平均正答率 60%以上)を定期考査で検証する。		
4. 検証結果(成果と課題) <u>【年度末に記入する】</u> ＜成果＞ ＜課題＞	5. 令和8年度(次学年)の学習指導において特に留意すべき事項 <u>【年度末に記入する】</u> ・		
6. 令和8年度(次学年)末に期待する児童(生徒)の姿 <u>【年度末に記入する】</u>			

【別紙2】

〈授業改善推進プラン 令和7年度第3学年 音楽科〉

1. 『わかる』から『できる』を体感する授業を実現する上で解決すべき課題

授業アンケートの問5の設問について、否定的な回答をしている生徒が15%いた。R5,6年度は一曲を通して速度指定がJ=120程度、臨時記号が少なく可能な限り順次進行が多い楽曲を選択したが、本年度は穏やかなテンポ感、ジプシー音階による臨時記号の増加、個人での反復練習が求められるシーンが入っている曲を選んだ。取り組んでいる楽曲の難易度が上がり、簡単に演奏できない場面が多かったことが原因として考えられる。また、問6の学習者用端末の活用においては、否定的な回答が10%あった。より学習の定着が実感できるようにするため、学習者用端末を効果的に活用したい。

2. 課題改善に向けた取組状況

(1) 令和5年度授業改善推進プラン記載内容

【異学年交流の実施】3学年のみで練習を実施した後、全学年合同の授業を実施する（器楽分野）。最上級生として、「教える・まとめる」ことを意識し、責任感をもって活動に取り組めるようにする。リーダー等の役職に就いている生徒も少なくないため、成功体験を多く積ませるような場面を設定し、「自信をもつことができる」授業を目指す。

【ICT機器の導入】本年度5月より、音楽室にモニター画面を設置した。実際に教師がお手本を見せて他の、視覚的な情報を積極的に与え、演奏のイメージをもてるようにする。また、2学期以降、各パート、各楽器の“お手本動画”をクラスルームに投稿し、生徒の学習端末から1人1人が視覚と聴覚を使って目標となる演奏を把握できるようにする。演奏の様子を撮影し、課題を見つけ、自分たちで練習計画を立てられるようにする。ICT機器の導入で、生徒自身が「演奏で表現できる」授業を目指す。

(2) 今年度実践している『わかる』から『できる』を体感する授業を実現するための工夫等

- ・1つの題材内で振り返り欄を設け、できたことが実感できるようにしている。
- ・R5年度より、単学年での練習はパートや個人練習ではなく全体合奏に限定し、そこで習得したことを異学年合同練習で活かすサイクルを実践している。また、学期末に実技テストを行い、少しでもできることが増えたことを実感できるようにしている。（吹奏楽）

3. 課題の改善に向けた方策と検証方法

＜方策＞

①授業の中で振り返りを行うが、「その日できたこと」の記載欄を設ける。また、奏法等に関する疑問点に答えていくため、質問欄を設ける。

②全体合奏を全校吹奏楽指導の基本とし、一人ひとりができないことの原因を的確に指摘し、その解決策、解決策の挑戦によってできたことの価値付けを心がける。また、楽曲内で「頑張ればできる」領域を見極め、課題設定を行う。

＜検証方法＞

①年度末の音楽発表会後の振り返りで、できるようになったことに対する具体的な記載を見とる。（自身の発音・発声の変化、音域の広がりや、合唱の全体像に対する変化を感じ取った記載）

②年度末の授業アンケートにて、問5と同様の設問の肯定的評価が85%以上を超える。

4. 検証結果（成果と課題）【年度末に記入する】

＜成果＞

＜課題＞

5. 令和8年度（次学年）の学習指導において特に留意すべき事項【年度末に記入する】

- ・
- ・

6. 令和8年度(次学年)末に期待する児童(生徒)の姿【年度末に記入する】	

【別紙 2】

〈授業改善推進プラン 令和7年度第3学年 美術科〉

[illegible]

【別紙 2】

【別紙2】

〈授業改善推進プラン 令和7年度第3学年 保健体育科〉

1. 『わかる』から『できる』を体感する授業」を実現する上で解決すべき課題 ・授業を受けて、科目に対する興味・関心が一層深まったと回答する割合を増やすこと (あてはまらない1名、やや当てはまらない6名、やや当てはまる10名、かなり当てはまる3名) ・授業を受けて、学習内容が身についていると実感していると回答する割合を増やすこと (やや当てはまらない4名、やや当てはまる10名、かなり当てはまる6名) 【令和7年度1学期実施授業アンケートより20名回答】	
2. 課題改善に向けた取組状況 (1) 令和5年度授業改善推進プラン記載内容 ・単元や1時間の見通しを持ち、主運動につながるように積極的に取り組むようにする。 (2) 今年度実践している『わかる』から『できる』を体感する授業」を実現するための工夫等 ・各単元において、学習カードを使用し、見通しをもって授業に臨むこと。 ・学習者用端末を使用し、知識と技能向上の一助とすること。 ・仲間と振り返る機会を設け、本時の振り返りと次時への意識付けを図ること。	
3. 課題の改善に向けた方策と検証方法 ＜方策＞ ①学習者用端末を用いて、運動や保健の学習に主体的に取り組めるようにすること。 ②学習カード等から生徒の躰きを把握し、個別や全体に共有する。	＜検証方法＞ ❶2学期授業アンケートの上記項目の「当てはまらない・やや当てはまらない」の回答の減少 ❷2学期期末考査の得点と生徒自身の学習方法の振り返り
4. 検証結果(成果と課題) <u>【年度末に記入する】</u>	5. 令和8年度(次学年)の学習指導において特に留意すべき事項 <u>【年度末に記入する】</u> ※卒業のため記述なし
6. 令和8年度(次学年)末に期待する児童(生徒)の姿 <u>【年度末に記入する】</u> ※卒業のため記述なし	

【別紙 2】

〈授業改善推進プラン 令和7年度第3学年 技術科〉

1. 「『わかる』から『できる』を体感する授業」を実現する上で解決すべき課題

- ・授業アンケートの結果、技術の興味関心が一層深まったという項目が30%の生徒が「あまりあてはまらない」という結果だったので授業の中で生徒の興味関心を引けるような話題や授業の進め方をできるように取り組んでいく。

2. 課題改善に向けた取組状況

- (1) 令和5年度授業改善推進プラン記載内容
- ・興味関心を高くもち、技術の理解度を高めること。
- (2) 今年度実践している「『わかる』から『できる』を体感する授業」を実現するための工夫等
- ・1時間の授業の見通しをもてるように、授業の流れやポイントなどをあらかじめ提示しておく。
 - ・工具の種類によっては使い方の練習を行い、失敗をしないようにする。

3. 課題の改善に向けた方策と検証方法

<方策>

- ①授業の中での内容理解を深めるために、机間指導
の中で一人一人に目を向け、作業の状況やサポート
をできるようにしていく。

<検証方法>

- ①作業が行程どおりに進めたかどうか。
- ②作品の完成度が高いかどうか。

4. 検証結果(成果と課題) 【年度末に記入する】

<成果>

＜課題＞

5. 令和8年度(次学年)の学習指導において特に留意すべき事項【年度末に記入する】

-

6. 令和8年度(次学年)末に期待する児童(生徒)の姿【年度末に記入する】

〈授業改善推進プラン 令和7年度第3学年 技術・家庭 家庭分野〉

1. 『わかる』から『できる』を体感する授業」を実現する上で解決すべき課題

①家庭学習や提出物における自主性の個人差

授業アンケート結果から、家庭でも予習や復習の時間をとっている(問1): 否定的10人、「宿題」「作品」「提出物」を期限内にきちんと提出している(問3): 否定的8人であった。そのことから家庭での予習・復習の習慣化に差があり、提出物の期限遵守にもばらつきが見られる。

②「わかる」実感は高いが、「できる」実感に差がある

アンケート結果では、「授業が分かりやすい」(95%以上)、「教材が適切」「説明が聞き取りやすい」などの項目において肯定的な回答が多数であるため生徒の「わかる」実感は高いことがうかがえる。一方、「学習内容が身に付いていると実感」(問4)では肯定的回答が80%とやや下がり、5人に1人が「できている」と感じられていない状況が見られる。

③『『できる』実感につながる学び方の見通し』のばらつきが課題

「評価の提示」(問10: 肯定的95%)や「振り返り活動の実施」(問6: 肯定的90%)など、授業の工夫を感じているが、学習のゴールや活用場面などをどの程度自分事としてとらえられているかには個人差があると推測され、「できる」実感につながる学び方の見通しにばらつきがある可能性がある。

【令和7年度1学期実施授業アンケート20名回答】

2. 課題改善に向けた取組状況

(1) 令和5年度授業改善推進プラン記載内容

＜成果＞・技能テストの告知を早めに行うことや練習時間を十分に確保することで、技能テストに向かう主体的態度が見られると同時に、技能の定着ができていた。

＜課題＞・家庭実践の内容に生徒間で大きな差が見られる。

(2) 今年度実践している『『わかる』から『できる』を体感する授業』を実現するための工夫等

- ・題材の最初に「この学習で何ができるようになるか」を明示し、目標の共有を行う。
- ・振り返りカードを活用し、自分の成長や学習の成果を言語化する時間を設ける。
- ・家庭・地域との接続を意識した課題設定(例: 地域での子育て、保育園実習)を通して「実生活やとつながる学び」を意識づける。
- ・評価基準(ルーブリック)を生徒と共有し、自分の到達度を確認できるようにする。

3. 課題の改善に向けた方策と検証方法

＜方策＞

- ① 題材ごとに「できるようになることリスト」等を掲示し、授業の見通しを可視化する。
- ② 学習の過程で生徒自身が「今、何ができていて、何ができていないか」を自己評価する時間を定期的に設定する。
- ③ 振り返りカードに「どの場面で自分の力が生かせたか」「実生活にどう生かせそうか」など、活用の視点を加える。
- ④ アンケートで否定的回答が見られた項目(例: 学習の実感・振り返り)について、対象となる生徒への個別聞き取りや観察を通して改善策を検討する。

＜検証方法＞

- ① 振り返りカード、2学期授業アンケート結果
- ② 振り返りカード、2学期授業アンケート結果
- ③ 振り返りカード
- ④ 観察、振り返りカード、2学期授業アンケート

4. 検証結果(成果と課題) 【年度末に記入する】

＜成果＞

・

＜課題＞

5. 令和8年度(次学年)の学習指導において特に留意すべき事項 【年度末に記入する】6. 令和8年度(次学年)末に期待する児童(生徒)の姿 【年度末に記入する】

【別紙2】

〈授業改善推進プラン 令和7年度第3学年 英語科〉

1. 『わかる』から『できる』を体感する授業を実現する上で解決すべき課題

- ・令和7年度村学力調査では全国値よりも総合で-8.2ポイント、観点では知識・技能-10ポイント、思考・判断・表現では-6.1ポイントだった。そして、令和6年度村学力調査では総合で-9.3ポイント、観点では知識・技能-9.4ポイント、思考・判断・表現では-9.2ポイントだった。前年度と比べると全体としては向上傾向があるものの、知識・技能において課題がある。

2. 課題改善に向けた取組状況

(1) 令和5年度授業改善推進プラン記載内容

該当学年が中学1年生であった令和5年度の授業改善推進プランでは課題として以下のことが示された。

- ・村の学力調査ではほぼすべての項目において全国平均と同程度であり、おおむね良好な状況である。
- ・領域では「書くこと」が92.7%の正答率と全国平均85.7%よりも高い値を示した。一方で、「聞くこと」「読むこと」に関しては全国平均よりわずかに高い値を示すにとどまっており、他の項目の優位性から鑑みるに改善の余地がある。
- ・以上のことからアウトプットよりもインプットに課題があると考えられる。

(2) 今年度実践している『わかる』から『できる』を体感する授業を実現するための工夫等

- ・前時までの復習を導入時に毎回行い、基礎基本の定着を図る。
- ・既習内容を活用したコミュニケーション活動を行う。
- ・短時間で未修の英文を読む練習を繰り返し、復習とともに英語のへの抵抗感を軽減する。

3. 課題の改善に向けた方策と検証方法

＜方策＞

- ①各授業で前時の復習を積極的に行い、基礎基本の定着を図るために統一した形式の練習プリントを使用する。
- ②ワーク付属のデジタルドリルや既習事項の振り返り教材を活用し、復習の反復練習を行う。

＜検証方法＞

- ①単元終了後に内容をどの程度理解しているかを確認する。
- ②反復練習を確認するために練習時と同じ問題での確認を行う。

4. 検証結果(成果と課題) 【年度末に記入する】

＜成果＞

＜課題＞

5. 令和8年度(次学年)の学習指導において特に留意すべき事項 【年度末に記入する】

- ・
- ・

6. 令和8年度(次学年)末に期待する児童(生徒)の姿 【年度末に記入する】